

学芸員紹介

小林 まさ代

今年度から自然の博物館本館勤務となった小林まさ代です。岩石・鉱物の担当です。

昨年度までは川の博物館で民具などの収蔵資料の管理や、特別展の開催（平成24年「今だって氷河時代」、平成26年「荒川流域の鉱山と産業」、平成28年「都幾川・槻川」）を担当しました。

大学時代は群馬県北部の蛇紋岩メランジュ中の岩石や鉱物を調べていたため、関東山地に分布する「蛇紋岩」に興味があります。蛇紋岩はマントルに由来する岩石と考えられています。地下十数キロにあった岩石が、どうやって現在の地表に持ち上げられてきたのか、そこにはどんなイベントがあったのか、興味は尽きません。蛇紋岩は石材としても美しく、蛇紋岩同士がこすれあってできた「鏡肌」や、磨いた面を見ると、その光沢のある深緑色にうっとりしてしまいます。また、長瀨町では蛇紋岩に伴って「滑石」が産出するのですが、昔から「ろう石細工」の名で土産物として売られていたこともあり、ほんの数か月で複数のリファレンスを受けました。長瀨町内での滑石の採掘は、すでに行われなくなっていますが、多くの方に知られる、地元根付いた石があるというのは素晴らしいことと感じています。また、知名度は低いのですが、やはり蛇紋岩に伴って産出する「ロジン岩」も皆さんに知ってほしい石です。白～薄緑色の美しい岩体が皆野町に見られるのですが、最近、その魅力に勝てない人々が多いのか、心無いえぐられ方をしているのが気になる石でもあります。

その他、埼玉県内には鉱物コレクターに有名な秩父鉱山をはじめ、90か所を超える鉱山などもあります。蛇紋岩への愛をあふれさせつつ、埼玉県の岩石・鉱物の魅力を、みなさんにお伝えできる仕事ができればと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

(こばやし まさよ・学芸員)



祝 入館者300万人達成

山田 和彦

昭和56年11月に埼玉県立自然史博物館として開館して以来の入館者数が、平成28年8月12日に300万人を達成しました。300万人目の入館者となったのは、倉井幹雄（くらいみきお）さんと茜花（あかね）さん、健助（けんすけ）さん、康生（こうせい）さんの御家族です。

記念セレモニーでは、中村修美館長より認定証と年間観覧券2名分、記念品としてアンモナイト化石を贈呈し、来館した多くの方々とともにお祝いいたしました。茜花さんは「300万人目の来館者となったことは全くの予想外のことでとてもうれしいのですが、お母さんが仕事で一緒に来ることができなかったのは残念。」とおっしゃっていました。一方で「300万人となってアンモナイト化石をもらったことをお母さんが知った時、なんて言うかな？」と楽しそうでもありました。

また、一般の来館者先着300名様には、

「300万人記念缶バッジ」を贈呈いたしました。さらに、スペシャル企画として、抽選で40名様にスピノサウルスの歯化石やサメの歯化石、缶バッジ等をプレゼントいたしました。

このようなイベントを実施することができたのは、これまでお引き立て下さった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。今後も、多くの皆様に御満足いただけるよう展示やイベントなどに工夫を凝らしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(やまだ かずひこ・担当課長)

